

# 重大な事故防止に向けた安全対策

## 【 3 バスケットボール 】

### 1 競技特性

アメリカで考案されたスポーツ。ゴール型の球技でそれぞれ5名の競技者からなる2つのチームが互いにボールを奪い合いゴール(高さ3.05m)にボールを投げ込み(シュート)得点を競うスポーツである。競技の特性から走る(ラン)、跳ぶ(ジャンプ)、投げる(スロー)といった基本的な要素が要求されるため傷害(捻挫、打撲、突き指、脱臼)も多い。

### 2 想定される事故事例と予防策

#### (1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コートのライン付近に障害物がある。</li> <li>・ 器具の破損。</li> <li>・ コートと壁が近いための衝突</li> <li>・ コートに凹凸や破損がある</li> <li>・ 床が滑る。</li>   <li>・ 移動式ゴールの準備・片付け時及び設置不備によるゴールとの接触、タイヤに挟まれる</li> <li>・ 試合中のゴール支柱との接触。</li> <li>・ リングやボードがしっかりと固定されていない。</li> <li>・ ボールの空気圧が適切でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 捻挫</li> <li>・ 打撲</li> <li>・ 骨折</li> <li>・ 靭帯損傷</li> <li>・ 擦過傷</li>   <li>・ 打撲</li> <li>・ 挫傷</li> <li>・ 骨折</li>   <li>・ 頭部外傷</li> <li>・ 骨折</li>   <li>・ 骨折</li> <li>・ 突き指</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 練習前の点検・整備をする。不要物は片付ける。</li> <li>・ 練習前の点検・整備をする。不備なものは修理等をする。</li> <li>・ 壁に安全マットを付けるなどの工夫をする</li> <li>・ モップワックスがけを徹底する。</li> <li>・ 移動式ゴールの場合、監督者(教員等)の下、注意力散漫にならないように設置等をする。足下には十分注意をさせる。</li> <li>・ ゴール支柱に安全マットを付けるなどの安全対策をする。</li> <li>・ 使用前にボルトの緩みなどを確認する。</li> <li>・ 使用前に空気圧を適切な値に調整する。</li> </ul>

#### (2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体接触時における傷</li>   <li>・ プレー中で相手との接触により肘が歯に当たり、歯が折れたりぐらついたりする。また、額同士のバッティングなどもあ</li> <li>・ パスの練習中、ボールが眼・耳に当たる。</li> <li>・ ゲーム中や終了後に意識が薄れ倒れ込む。</li> <li>・ 急激な活動による心臓発作。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 捻挫</li> <li>・ 骨折</li> <li>・ 打撲</li> <li>・ 擦過傷</li> <li>・ 靭帯損傷</li>   <li>・ 歯牙破折、脱臼</li> <li>・ 口内裂傷等</li>   <li>・ 聴力障害</li> <li>・ 視力低下</li> <li>・ 失明</li>   <li>・ 心臓発作・突然死</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルール等を理解させ、過度の接触を避け</li> <li>・ 準備運動を十分に行う。視野を広く持たせる。接触に負けない体づくりや安全な体の使い方を指導する。特につま先と膝が同じ方向を向く体の使い方を身につける。オーバーワークにならないような練習量や練習強度を調整する。</li> <li>・ 視野を広く持たせる。接触に負けない体づくりや安全な体の使い方を指導する。</li> <li>・ 初心者には捕球の仕方を指導し、互いに声を出し合い補球の準備を確認しながら行うよう指導する。</li> <li>・ 定期的な健康診断でリスクを抱えた疾患を事前に発見する。コンディションをチェックし運動量の調節をする。適切な救命処置と緊急時に迅速な対応ができるよう備え</li> <li>・ 活動前にAED設置場所の確認をする。最寄りの医療機関の確認をする。</li> </ul>

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動に不要な装身具を身につけている。</li> <li>眼鏡使用者との接触。</li> <li>ボールを取りに行こうと走り出したとき、足が滑り顔面・後頭部から床に落ちた。</li> <li>爪が伸びている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>擦過傷 爪の剥離 打撲 擦過傷</li> <li>歯牙破折、脱臼 口内裂傷等 打撲 意識障害</li> <li>失明</li> <li>爪の剥離</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動前に不要な装身具ははずす。</li> <li>眼鏡を固定するなどの工夫(コンタクトレンズ等に替える)をする。</li> <li>練習前のコートのもップがけ。汗が落ちたり濡れた場合は必ず拭く。滑りやすいバスケットシューズは使用しない。床の定期的な点検。</li> </ul>

### (3)主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>高温時に活動をした場合。</li> <li>自然災害(地震、火災)。</li> <li>Jアラート発令時の対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱中症 頭痛 めまい 頭部打撲 意識障害</li> <li>挫傷 骨折 火傷 意識障害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気温に合わせた活動内容にする。十分な休憩と水分補給をする。</li> <li>こまめな水分補給。窓を開け、体育館の通気性をよくする。吸水性、通気性に優れた衣服の直用。着替えをこまめにする。熱中症が出現した場合は、涼しい場所に移し電解質や塩分を含んだ水分を摂取させ、首筋や脇の下を冷やし体温を下げる。付き添いがつく。</li> <li>活動前に十分な水分補給を実施する。</li> <li>各会場(公共機関・学校)におけるマニュアルを周知徹底させる。</li> <li>発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。</li> </ul>

#### 参考文献

Active sports2017総合版  
大修館書店

# 安全確認チェックリスト

## 【 3 バスケットボール 】

競技会名	
期 日	令和    年    月    日 (    )
会 場	
記載者名	

区分	確認項目	✓
施設・設備・用具	バスケットボールコートは整備されているか。	
	コートの周りに障害物はないか。	
	床が滑りやすくなっていないか。また、モップは用意されているか。	
	いす、机の破損はないか。	
	リング、ボードはしっかりと固定されているか。	
	リングの破損やネットが切れている等がないか。	
	ボールの空気圧は適切か。	
	空調や会場内の温度は適切か。	
活動内容	準備運動は十分に行ったか。	
	活動に適した服装であるか。	
	時計、ネックレス、指輪、イヤリング等の装身具を身につけていないか。	
	爪が伸びていないか。	
	体調不良の生徒はいないか。	
	安全面に注意して活動しているか。	
	危険なプレーや無理なプレーをしていないか。	
	競技の特性を理解して活動しているか。	
	計画的な練習をしているか。	
	水分補給や休憩を十分にとっているか。	
	整理運動は十分であるか。	
練習後の身体のケアは十分であるか。		
環境条件等	緊急時の連絡体制は十分であるか。	
	R I C E 処方やテーピングなどの応急処置について理解し、実践ができるか。	
	医薬品等の準備はできているか。	
	A E D の設置場所を把握しているか。	
	水分やアイシングの準備はできているか。	
緊急時の避難場所や避難経路を把握しているか。		
発令時対応	主催者や指導者がJアラート発令時の対応を確認し、参加者等に周知しているか。	
	顧問不在時など想定される様々な場面での避難方法を、生徒等に指導しているか。	
	情報の収集や保護者への連絡方法を確認し、名簿等を準備しているか。	

反省・報告(事故、ヒヤリ・ハット含む)